

このバンブーシューツ(筍)が大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように

<姉妹都市 50 周年 リズモー市でサッカー親善試合を行う>



別の日にはバスで、オーストラリア最東端に位置するパイロンベイへ行き、パイロンベイ灯台付近を散策しました。また、カランビンワイルドパークでは、カンガルーの餌付け、バードショー、コアラを抱っこしたり、スネークショーなども楽しみました。ホテルやレストラン、ショッピングなどで、現地の英語を体験することも出来ました。アシュモアのレストランでは、600gのステーキに挑戦しましたが、完食できたメンバーはいませんでした。



大和高田市サッカー協会が、中学1年生による選抜チームを編成して、リズモー市を訪れました。同世代のクラブチームと親善試合を行い、現地の人々との交流を深めました。

選手は、大和高田市サッカー協会加盟のディアブロッサ高田FCと、市立高田西中学校サッカー部所属の選抜メンバー20名です。リズモー市への交流ツアーの日程は、3月22日から28日までの7日間で、23日24日には、グーネラバサッカーチームと合同練習をし、親善試合を行いました。芝生が美しく、広大な土地でのサッカーは、最高に素晴らしい経験となりました。その日の夕食は、グーネラバのクラブハウスで、バーベキューパーティーで、本場のオージービーフを食べました。

滞在中は、ホームステイ先の家族と、海水浴やショッピングなども楽しみました。また、リズモー市役所に、ジェニー・ダウエル市長を表敬訪問したり、リズモー市のサザンクロス大学内にある、ジャパンセンターを見学し、現地の人々と友好を深めました。



彼らは、今回の体験で、次のように感じたようです。

- ・人の優しさ、文化を学んだ
- ・困った時、日本人と違う優しさを感じた
- ・ホームステイ先の人が、わかりやすく説明してくれた
- ・相手を思いやるチームと試合ができて良かった
- ・英語が心配だったけど、けっこう通じた
- ・今回の体験を今後にいかしたい

たくさんの人との思いを胸に、帰国の途につきました。帰国後、メンバーたちは、指導者らとともに大和高田市役所を訪れ、吉田市長に帰国報告をしました。市長は、「締結60周年、70周年の時には、両市交流の中心メンバーになって欲しい」と、期待を寄せました。

帰国後もずっと、フェイスブックやメールなどで、お互いに連絡をとりあい、交流を続けているメンバーもいるそうです。何年か先に、成長して大人になった彼らが、またサッカーのフィールドで再会することでしょう。



<大和高田 太鼓 どんどこ>



日本には、古くから和太鼓があります。大和高田市でも、お祭りに運行される“だんじり”には、和太鼓がのせられ、中でリズムカルな音が打ち鳴らされています。

大和高田市には、和太鼓を市民が楽しんで練習する機会がありませんでした。そこで、土曜日に子どもと親が地域で学ぶ活動を展開する「土曜塾」が、和太鼓教室を立ち上げました。市民へ募集したところ、親子ら約40名が、6月16日の第1回目の練習に集まりました。

練習は、リズモー友好の植樹をした総合公園の一角にある、市内の農家が集まり週2回新鮮野菜を販売している“ときめきたかだ”で行われました。和太鼓は、高価なもので予算が無いため、古タイヤに荷造りテープを貼り付けた“タイヤ太鼓”で練習しました。

和太鼓 楽鼓（らっこ）グループ代表の松本弘昭さん指導のもと、まず子ども達に本物の和太鼓を見せて、音をきかせ、注意事項の説明の後、皆にバチを渡してくれました。バチも100円ショップの麺棒です。子ども達は右、左とバチを持つ手に力を入れ、叩くと響く和太鼓の音を楽しみました。7歳のお子さんを連れて来たお母さんは、「とっても興味のある催しで、近くて、参加費も20円と安く、良い経験が出来るので続けたい。」と話しました。主催者は、これから月2回の練習を重ねて、お祭りや発表会などで披露したいと、希望しています。

<リズモー市への派遣学生決定>

大和高田市からリズモー市への今年の派遣学生が決定しました。随行教員である片塩中学校の小川一人先生と共に、次の6名の高校生が7月26日から8月9日までの15日間、リズモー市を訪問します。

【小川 一人先生】

私は、現地の人との交流を通じて生活の様子を肌で体感すると共に、英語を用いて積極的に人々に接したいです。また学生に最高の思い出を作ってもらえるように、一生懸命努力し、自分自身も精一杯楽しみたいです。

【磯尾 匠】

僕は、リズモーの人々と積極的に交流して、日本とは、異なる文化を体験したいです。そして、僕は将来、教員の道に進みたいと思っているので、教員になった時に、今回のホームステイの経験をいかしたいです。

【仲 有香】

日本は、四季がきれいで、本当に素敵な国だと思います。私は春と秋が大好きなので、四季の花や行事を、折り紙で折って表現したいと思っています。生きた英語と豊かな表情、思いやりなど様々な事を学びたいと思います。



【中島 早穂】

リズモーでは、日本との文化、言葉の違いを学びたいです。また、日本の文化、例えば古くからの茶道、近年のマンガやアニメなどを伝えたいです。日本の良さを多くの人に知っていただきたいと思っています。

【福井 真優】

リズモー市の文化や生活に触れ、現地の人々とコミュニケーションをたくさん取り、大和高田市とリズモー市の友好関係を築きたいです。また、書道や合気道を通して日本の伝統的な文化を伝えたいと思います。

【森田 梨紗】

リズモーへ行って少しでも自然な英語を話せるようになりたいです。日本の楽しいことを伝えられたらと思っています。リズモーの方々とも少しでも多く会話をして、交流を深めていきたいと思っています。

【吉川 千捺】

今年はリズモーと高田の姉妹都市締結 50 周年ということで、より深くお互いの市のことを知るチャンスなので、これを機に友好の歴史や目では見えない文化などにたくさんふれたいです。

<ポトルブラシの木に花が咲きました>

昨年9月、大和高田市総合公園に、姉妹都市交流 50 周年を記念して植えられた、ポトルブラシの木に、たくさんの花が咲きました。植樹から9ヶ月、しっかりと根をはり、大きくなっています。カンガルーやコアラの置物のある「リズモーの庭」も、市民の憩いの場となっています。

